

# 技術士合格体験記（電気電子部門）

エクシオグループ株式会社 酒井 倫恵  
(令和3年度本講座受講生)



## ◎はじめに

“技術士”という名称から、超越した技術力や素晴らしい経験をお持ちでないと、合格はできないとお思いでしょうか。そんなことはありません。専門技術をどう工夫して“社会課題を解決するか”を伝える、いわば試験官にプレゼンをする試験だと、私は受験生期間を通して考えました。

技術士を目指す方々は、日々の積み重ねでたくさんの経験をお持ちであり、技量は十分のことと存じます。その豊富な経験、知見を文章にするためのあと一歩が必要です。

私の経験が、これから挑戦する方々に少しでも参考になればと思い、筆を執らせて頂きました。

## ◎受験のきっかけ

私は通信インフラの設計を行っています。発注者様やエンドユーザ様など利害関係者が多く、工事のご説明や折衝の機会が多い業務です。その際経験年数や性別の観点から、信頼を得づらいと感じる節が多々ありました。

そのため技術系最高峰の国家資格を取得することで、強い信頼を得られると思い、受験を決意しました。

## ◎筆記試験突破対策講座の受講

受験勉強にあたり、筆記試験対策講座（オンラインセミナー、論文添削）を受講しました。論文添削にあたって大切なことは、謙虚になることです。どんなに論文が真っ赤に添削され戻ってきてても気分を害さず、真摯に指摘を受け入れることが大切です。

そこで私は論述に対する欠点、技術的な解釈の間違いなどから、文章の癖や筆跡の癖も指

摘していただき、技術士試験に求められる能力を気づくことができました。ご指摘をもとに、相手に文章を正しくわかりやすく伝えるよう心がけたことで、論文、さらにはメール一つの通常業務もよりステップアップできたと実感しました。

また、私は幼い子供を育てながらの受験勉強で、夜分や早朝にメールをお送りすることがありました。講師の方々は快く受け入れてくださり、さらにはねぎらいのお言葉をくださいました。このやりとりがとても励みになり、勉強する意欲を維持できました。

## ◎口頭試験対策講座の受講

コロナ禍ではありましたが、対面の口頭模擬試験を開催していただきました。オンラインで行う模擬試験とは異なり、いざ面と向かって質問をされると、うまく答えられないものです。口調や喋るスピードもコントロールできなくなります。緊張感をもって行うことで、自らのふるまいを確認でき、オンラインより効果的だったと感じます。口頭試験は、本番でどんな質問が来ても怖くないよう、しっかりと準備しておくことが重要です。

## ◎おわりに

技術士の勉強はゴールが見えず、暗闇をひたすら走っている感覚です。キーワード収集や論文の添削を受けていると、ふと『はたしてこの行為は役に立つのか？』と立ち止まることがあると思います。大丈夫です。無駄な知識、勉強時間はひとつもありません。それぞれが点であっても、いつかは線になります。迷いが生じたときは初心に戻り、『どうして受験しているのか』を思い出してください。諦めなければ結果はついてきます。